

開校30周年記念特別号 ～明日は開校記念日です～



明日は、帯広市立森の里小学校の30回目のお誕生日「開校記念日」です。今号は、開校記念特別号として、森の里小学校の歴史等を紹介いたします。

学校設立の背景

森の里小学校は、総面積402ヘクタールに広がる広大な「帯広の森」に隣接した、自然環境豊かな緑のあふれる学校として平成3年に設立されました。

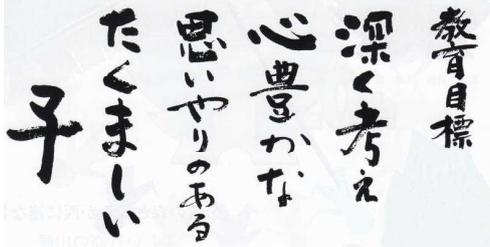
西帯広ニュータウンの住宅建設が進み、開西小学校の児童数が1172名と急増（平成2年度）したことが設立の背景となり、開西小学校の過密解消のため、開西小学校から分離する形で、「森の里小学校」として新設されました。

平成3年4月1日に、児童数596名、特別支援学級を含む合計19学級、総面積6,032㎡で開校しました（校舎は平成6年に増設されました）。



学校名の由来

「緑あふれる、北のフロンティア都市」のシンボルである帯広の森に隣接し、自然あふれる快適な街並みが形成されている西帯広ニュータウンに建設された学校の位置を表し、21世紀を担う子ども達が、豊かな森の緑の中で元気に育ち、新しいふるさとを創り上げてくれることを願って命名されました。



学校教育目標

開校当時から変わらぬ学校教育目標です。今も変わらず、確かな知識や技能を身につけ、

人に優しく、生命に優しく、心身共に健康な子ども達の育成を期して、日々の教育活動を推進しています。



なぜ7月1日？

森の里小学校は3期にわたって工事が行われました。第1期の工事が終了し、平成3年4月1日に開校しましたが、第2期工事の終了6月29日をもって、校舎完成としたことから、7月1日が開校記念日になったようです。

校章の作成者

森の里小学校の校章は、「はるかに日高山脈を望み、広がる大地、豊かな緑の森、未来に大きくはばたく子どもたち」、そんな姿をイメージつくられました。作成したのは、開校当時（平成3～7年度まで）在籍していた「成瀬 登先生」です。成瀬先生は、森の里小学校で定年退職されました。



校歌の作成者

森の里小学校の校歌は、開校当時の学校長「野田武美先生」が作詞者です。作曲者は、校章の成瀬先生と同様、開校当時在籍していた「斉藤道子先生」によるものです。小学校の校歌の中にある「北のロマンを語ろうよ」というフレーズがとても斬新です。

校歌【未来にはばたけ】

作詞 野田 武美
作曲 斉藤 道子

一 緑あふれる 十勝野の
大空かなた かかる虹
希望大きく 未来に生き
知恵と心を みがき合い
すすすく伸びる 森の里

二 森に歌声 ひびかせて
澄ゆくこだま さわやかに
ひとみ輝き 夢うつし
やさしき友と 輪になって
明るく学ぶ 森の里

三 はるか山脈 めぐむ大地
新たないのち はぐくみて
北のロマンを 語ろうよ
ひろく世界に はばたけと
われらが母校 森の里

制定 平成三年九月十四日

森の里小の歴史 (番外編)

校章、校歌が制定されたのは、開校から遅れること約5ヶ月後の9月14日

現在も続いている6年生の「森林教室」は平成7年から26年も続いている

第1回の学習発表会（当時は学芸会）は10月24・25日の2日間にわたって開催

現在の学習発表会は、平成30年までは「学芸会」として行っていた

平成8年の児童数は982名となる（現在は258名）

平成20年に全国ピオトープコンクールにて銀賞を受賞

第1回の運動会（6月9日）は、「大空のもと 光るあせと優勝旗」をテーマに行われた

平成3年に、当時の4年3組がTV「欽ちゃんの仮装大賞」に出場する

現在も毎年行っている「環境集会」は平成8年から25年も続いている

今もグラウンド西側にある雲梯は、平成8年にベルマークを通じて購入したもの

現在の高山校長は14代目。国重PTA会長は第12代目

木々も緑も少ない
開校当時の学校
(校舎西側から撮影)



開校式の様子
～教職員紹介～